JIC インフォメーション

第 178 号 2014 年 1 月 10 日
年 4 回 1･4･7･11 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所：JIC 国際親善交流センター　発行責任者：伏田昌義　http://www.jic-web.co.jp
東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F　TEL：03-3355-7294　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪・ロシア留学デスク：〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号　TEL：06-6944-2341

ロシア・旧ソ連 国際交流誌

あけましておめでとうございます
本年も JIC（ジェーアイシー）をよろしくお願いいたします!!

С Новым 2014-ым Годом!!

クレムリンとクリスマス・ツリー（モスクワ、赤の広場）

JIC では、Ｊクラブ（JIC 友の会）会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICスタッフより新年のご挨拶

あけましておめでとうございます‼

本年も JIC 国際親善交流センターおよびジェーアイシー旅行センターを

よろしくお願い申し上げます。

＊1 月号は恒例のスタッフ新年あいさつです。

新年雑感

伏田　昌義

ソチ五輪、プーチン訪日、平和条約交渉

今年 2 月にはソチ冬季オリンピックが開催されます。寒い冬にロシアを訪れる人はそれほど多くはありませんが、オリンピックを機に、ロシアへの関心が高まるのは嬉しいことです。

年内にはプーチン大統領の日本訪問も予定されています。昨年一年間に日露の首脳会談は 4 回も行われており、両国でプーチン、安倍という強力な政権が続いている間に、領土問題を含む日露平和条約交渉が大きく進展することが期待されます。しかしながら、領土問題は基本的には第二次世界大戦で日本が敗北したという歴史的事実の上に、その戦後処理として発生したものです。先の戦争を「侵略戦争」とみなさず、したがって中国、ロシアを含む連合国に日本が無条件降伏したという事実からも目をそむけたい気分が濃厚の安倍政権に、どこまで誠実で大胆な決断が下せるか、疑問なしとしません。日露関係に取り組む諸団体、諸個人が、歴史の事実を踏まえて日露交渉の進展を下支えすることが、今ほど強く求められている時はないと感じます。

訪日外国人客 1000 万突破、ロシアは？

このところ、原発ゼロ政策見直しや特定機密情報保護法の強行制定で保守色鮮明な安倍政権ですが、経済政策においては今のところ目覚ましい成果を収めています。アベノミクスがもたらした円安で、日本経済に久しぶりに活気が戻ってきました。これは観光業・旅行業にとっても好ましい環境変化です。

昨年は訪日外国人数が初めて 1000 万人を突破しました。これは円安の追い風と、タイ、マレーシアなどアジア諸国に対するビザ要件の緩和によってもたらされたものですが、残念ながら、ロシアからの訪日客数はいまだ 5-6 万人と全体の1％にも満たない水準に留まっています。東京オリンピックが開催される2020年には2000万人をめざして、さらに官民あげて訪日客拡大の努力が続けられる予定です。私たちはロシア・旧ソ連諸国からの訪日客の倍増、三倍増をめざしてこの流れに合流したいと思います。

一方、円安は日本人の海外旅行にとっては「逆風」ですが、この年末年始の予約状況は意外と好調と伝えられています。考えてみれば、1 ドル＝80 円という円高が異常だったわけで、現在の 100 円台は、豊かになった日本人にとっては、さほど痛い水準ではないのかもしれません。ソチ・オリンピックでロシア報道が増え、関心が高まるのは間違いないので、ロシア旅行の拡大にも大いに期待したいところです。

日露両国の人々が、経済的、文化的な交流を広げ、日常的に頻繁に互いの国を訪れる状況を作っていくことが、平和条約交渉を円滑に進める基礎になると思います。

第二次世界大戦、スターリン大粛清、ホロコースト、…

昨年末は久しぶりに映画を 2 本観ました。一つは、ニキータ・ミハルコフ監督の「遥かなる勝利へ」、もう一つは、ドイツ系ユダヤ人哲学者ハンナ・アーレントを描いた「ハンナ・ハーレント」。

「遥かなる勝利へ」はご存じのとおり、「太陽に灼かれて」、「戦火のナージャ」に続くミハルコフ監督の三部作で、スターリンの大粛清をテーマに、第二次世界大戦でドイツ軍との残虐で困難な戦いを強いられたソ連（ロシア）軍と、戦争や粛清に翻弄されつつも逞しく生き抜く人々を描いています。映画を観おわったあと、描かれたテーマの重さとともに、「これこそがロシアだ」という圧倒されるような思いにしばし襲われました。

ハンナ・アーレントは、ナチス・ドイツの強制収容所から逃れ、フランスで抵抗運動に従事したのち、アメリカに亡命しました。ホロコースト（ユダヤ人らの組織的な大量虐殺）を行ったナチズム＝全体主義とは何なのか、それはなぜ、どのようにして起こったのか。彼女は、第二次大戦後、「全体主義の起源」「人間の条件」など一連の著作で、全体主義（*1）の歴史的思想的な解明を試みました。映画は、命令の忠実な実行者として大量のユダヤ人を収容所へ輸送したアドルフ・アイヒマンの戦犯裁判の傍聴記録を軸に展開します。アーレントは、アイヒマンを凶悪な怪物としてではなく、上官の命令をただ忠実に実行した平凡な官吏として描き、世界に衝撃を与えました。自分の行為の意味を何一つ考えず、思考停止のまま出世のために命令を実行した結果、アイヒマンは数百万人のユダヤ人を死に追いやったのです。「悪の根

源は凡庸である」。思考の欠如こそがホロコーストを引き起こした。だからこそ、誰もがアイヒマンになりうるのだとアーレントは警告します。彼女はアイヒマン裁判の過程で明らかになった、一部ユダヤ人指導者がナチスに協力したという事実をも容赦なく指摘したため、ユダヤ人社会から激しい非難にさらされ、大学からも追放されます。

20 世紀最大の事件であり今日に続く国際秩序の基盤を成している第二次世界大戦とその戦後処理をめぐって、歴史の事実を真摯に見つめ直し、人間の根源に遡る苦闘とともに、正義の意味や人間のあり方を問う努力を続けている人々が、ヨーロッパにもロシアにもアメリカにも確かに存在していることを、2 つの映画は教えてくれます。

*1；アーレントは、全体主義をドイツ・ナチズムだけでなくスターリンの共産主義をも含めた概念としてとらえています。

ヘイトスピーチ、従軍慰安婦、日本人の戦後責任、…

日本では、数年前からヘイトスピーチ(憎悪表現)が深刻な社会問題となりつつあります。東京の新大久保や大阪の鶴橋などのコリアタウンでは、「朝鮮人・韓国人出て行け！」「たたき出せ！」といった街頭行動とヘイトスピーチが毎週のように行われるようになっています。

昨年 10 月 7 日、京都地方裁判所は、朝鮮学校近くで差別的な街頭行動を繰り返した「在特会」(在日特権を許さない市民の会)に対し、「特定の国籍や民族への差別、憎悪を煽る行為は、日本も加盟している人種差別撤廃条約が禁じる人種差別にあたる」として、学校周辺での活動禁止と高額の損害賠償を命じる判決を下しました。いかなる主張があっても、社会の少数者を動物や虫にたとえて嘲ったり、「たたき出せ！」「殺せ！」などと連呼して憎悪を煽ったりすることは許されません。憎しみは憎しみを呼ぶ悪循環を呼び起こすだけです。

ユダヤ人排斥を唱えたナチスの台頭がホロコーストを招いた記憶が今も鮮烈なヨーロッパでは、ヘイトスピーチを禁止し、処罰の対象とする法律を持つ国がたくさんあります。国連の国際人権規約・社会権規約委員会は日本政府に対し、ヘイトスピーチの防止や包括的な差別禁止法の制定を求めていますが、政府は「表現の自由」を盾にこれを拒み続けています。人種差別撤廃条約に加盟する際にも、日本政府は、差別扇動禁止の法整備を規定した第 4 条を留保したままです。

ヘイトスピーチに甘い政府の対応は、実は日本という国が、第二次大戦を引き起こした戦争責任(＝日本がアジア諸国を侵略し、植民地や占領地においてさまざまな国際法規違反や戦争犯罪を犯した責任)を厳しく問い詰めることなく、したがって責任者の処罰も不十分なままに放置し、戦争被害者に対する償いをきちんと行ってこなかったことと深く関連しています。そのことは例えば、ホロコーストとの関係で言えば、リトアニアの日本領事館で約 6000 名のユダヤ人難民にビザを発給し「日本のシンドラー」と称えられる外交官・杉原千畝氏を、日本外務省が「ドイツの同盟国としての政府の訓令に従わなかった」として罷免し、戦後長らく名誉回復しなかった事実にも現れています。

昨年 5 月、大阪市の橋下市長は、「従軍慰安婦は必要だった」と発言して世界中から大きな非難を浴びました。従軍慰安婦とは、旧日本軍が組織的に運用した『性奴隷制度』であり、『強制売春』システムです。被害者は朝鮮、中国、台湾、フィリピン、インドネシア、オランダ、日本の数万人にのぼる女性たちです。従軍慰安婦問題は、橋下市長が言うような「昔の必要悪」ではありません。国際的には、ナチスのホロコーストや日本軍の南京大虐殺と同様に、重大な戦争犯罪＝「人道に反する罪」として認知されているものです。「人道に反する罪」に時効はありません。

1996 年にアメリカ司法省は、731 部隊関係者と「慰安所」責任者の計 16 名を戦犯として入国禁止措置にしました。国連の人権委員会は、1998 年 8 月、日本政府に対して「慰安婦制度」の責任者の刑事責任を追及すべきだという明確な勧告を行っています。日本の戦争犯罪は決して過去に決着がついた問題ではないのです。

現在、中国、韓国との関係が極度に悪化しているのは、尖閣、竹島の領土争いだけでなく、日本が過去の戦争責任をきちんと処理してこなかった「歴史問題」が背景に横たわっていることを忘れてはならないと思います。現在、多くの日本人を覆っているように見える歴史問題をめぐる「思考の欠如」は、私たちが戦後大きな困難とともに築き上げてきたこの社会を危うくしかねない危険性を孕んでいると思うのです。昨年、私が「悪魔の飽食」コンサート・ロシア公演の仕事に深く関わったのは、このような思いからでした。

日本のソフトパワーを高めるために

新年早々、かたい話になりましたが、外国人の目から見ると、日本は確かに世界に稀な素晴らしい国です。阪神淡路大震災でも東日本大震災でも、人々が略奪や暴力といった行動に走らず、甚大な困難の中で懸命に助け合った姿は日本人の高いモラル性として世界中の人々の称賛を集めました。日本は、いまや世界の無形文化遺産に登録された和食をはじめ古い伝統文化と最先端の科学技術を併せもつユニークな国です。文化発信力によるソフトパワーが国際社会で重要な影響力をもつようになっている今日、日本がさらに信頼され尊敬される国となるために、歴史認識や人権意識の分野でも事実と正義にもとづいた発信が必要だと思います。

日本とロシアとの交流を通じて世界中の人々とつながっていく仕事に、今年もしっかりと取り組んでいきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

ジェーアイシー旅行センター(株)代表取締役
JIC 国際親善交流センター副会長

記録すること

井上　沙弥香（JIC 東京）

あけましておめでとうございます。

昨年 4 月よりJICの一員となりました一番若い新人、井上沙弥香と申します。よろしくお願いいたします。

昨年の大きな出来事といえば人生で初めてミュージシャンのライブにいったことです。そのアーティストの熱狂的ファンというわけではなかったのですが、倍率の高いチケットが偶然にも手に入り、記念にという軽い気持ちでライブに行くことになりました。月曜日にも関わらず、仕事帰りなのかスーツ姿のファンで会場は溢れかえっていました。ライブの感想としては一言、感無量という言葉につきます。

生れて初めてのライブ

そのアーティストグループがブームを巻き起こしていた当時、私はまだ生まれていなかったのですが、なぜか曲をきいていると非常に懐かしい気持ちになり、横にいたスーツ姿のサラリーマンの方と同じようにただただ立ち尽くし歌の素晴らしさに泣いてしまいました。

そんな中、公演途中に少し気になったことがありました。舞台が煌々とスポットライトに照らされ、本来であれば暗闇であるはずのアリーナ席にぽつぽつと浮かぶ白い発光体。それはスマートフォンでした。明かりの主は舞台のアーティストを挙ってカメラにおさめようとしていたわけです。斜め前の女性などは大きなアイパッドを掲げて録画までしている有り様。「記念に写真におさめたい！」という気持ちはわかるのですが、目の前で本物のアーティストが生歌を披露しているのにも関わらず、画面越しに舞台を見つめている姿はすごく不思議な光景でした。果たしてこの女性は、家に帰ってからもこの動画を見るのだろうか、ふとそんな疑問が頭に浮かびました。

最近、携帯内蔵カメラの性能があがり、すごくきれいな写真が重いカメラを持たずとも手軽にとれるようになってきました。観光地やレストラン、至る所で携帯をとりだして撮影する姿を見かけます。でもほとんどの人たちが「撮った」ということに満足して終わっているような感じがするなと私は思います。私自身、フィルムカメラが主流であったかつてのように写真を紙におこすことがめっきり少なくなってしまいました。撮った写真は見返されることもなく電子データとしてパソコンに蓄積されていくばかりです。

このライブでの出来事がきっかけで、写真が趣味ですと言っている者として「これはいかんぞ！」と思い、撮りためていた写真データをひっぱり出してきて、せっかく現像するのだしフォトブックを作ろうと思い立ちました。

フォトブックにしてみてやっぱり写真というものは手に残る形にしてようやく、思い出だったり記録だったりという姿を成すのだなと実感しました。紙媒体はふと思い立った時に気軽に見返すことができるのでお勧めです。皆さんも、もしパソコンに眠るばかりの写真のデータがあるのならば現像して形にすることをお勧めいたします！

今年は写真を電子データに留めるのではなく、現像して手元にしっかりと思い出として残して行こうと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

ただいまリハビリ中

白井　秀治（JIC 東京）

あけましておめでとうございます！そしてはじめまして！

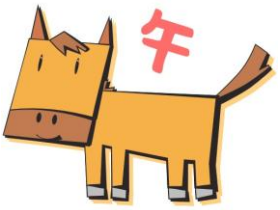
昨年 2 月に JIC に入社しまして、インバウンド部に配属された一番年配の新人、白井秀治です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

10 年前まで、そこそこ長くペテルブルグで生活をしておりましたが、帰国後ロシアとは全く無関係の職業に携わっておりました。そのおかげでロシア語はすっかり頭の中から消え去り、ロシア語が書けない、話せないはいざ知らず、単語もスペルも思い出せないなど、ある病の初期症状じゃないかしら？と自分でも疑ってしまうほどロシア語が脳内メモリから抜け落ちていました。連日のようにインバウンドスタッフの皆さまに迷惑をかけ、心の中で「すみません！」と何度も何度もまるで呪文のように唱えております。

それにしても人間の記憶力というものは恐ろしいもので、あれだけ普通にロシア語を書いたり話していたにも関わらず、帰国後の私の脳内では活発に「ロシア語→Command→DELETE」というロシア語メモリ消去機能が大活躍してきたようで、やれやれです。確か「忘れる」という脳の活動は非常に大切な機能だと何かの本で読んだことがありますが、ここまで忘れると非常に悲しい気持にもなります。自動消去機能を停止させ、日々ロシア語のリハビリに励んでおります。

こんな毎日を過ごしておりますと、普段の生活でも似たようなことが…。

「そう言えば、昔は楽器も弾けたなぁ」なんてことを夏辺りに思い出し、久方ぶりにケースからアルトサックスを取り出し、リードをマウスピースに丁



寧にセット。昔のように「パラッ・ププッ・ンッ・パパッパァ～」と演奏していた自分を思い出しながらマウスピースを口に当てサックスに息吹を…。「ん？」。もう一度…、「あれ？」。これは大変！！もう一回、「…」。管楽器というものは息吹を与えると音が出る作りになっているはず。数時間頑張ってみたものの、結局わたくしの大切なアルトサックスは蘇りませんでした。

待てよ。と言うことは…、これまた何年かぶりにギターをケースから取り出し、慌てて錆びついたゲージを新品に張り替え新品のピックを手にし、数あるエフェクター(30 年前に高校時代に購入)をアンプに繋げ、スムーズに弾きまくっていた自分を想像しながら…。これまた大変！やはり何も弾けない！単音弾きが全くもってできないではありませんか。次にコードカッティング。興醒め。一体どういうことでしょう、なんてギコチないではありませんか！もはやわたくしの指は再起不能になってしまったのでしょうか。折角とり出した楽器達はその日の内に再びケースの中へと…、深い眠りへと…。

悲しい現実とはこういうことなのかもしれません。でも人はこういう悲しみを乗り越えられるものですよね。

そう信じて今を、未来を、頑張りたいと思っています。

スィート 10 旅行♪

田邊　由紀子(JIC 東京)

明けましておめでとうございます。はじめまして！の方もいらっしゃるかと思います。昨年 3 月から、10 年以上ぶりに再び JIC でお世話になっております。

JIC 復帰直前に、結婚 10 周年を記念して、夫婦で旅行に行って来ました。

スィート 10 は、特別に夫からアクセサリーをプレゼントしてもらったりする方もいるようですが、私はそれほどアクセサリーに興味が無く、その代わりに旅行を！と話していました。

行先は～？「ロシア！」と言いたかったのですが、子育て真っ最中の我が家ではまだハードルが高く、国内でまだ行った事のない北海道、しかもオーソドックスな札幌・小樽ではなく、函館に決まりました。ほぼ夫の意見で。

旅行は天気が良いとさらにテンションが上がるものですが、私は旅行という旅行はだいたい雨か嵐…。旅行 3 日前までの予報は曇でひと安心でしたが、何かのチカラが働いてしまったらしく…、不安的中。出発直前になって『北海道に大寒波！』というニュースが舞い込み、私たちは飛行機が飛ぶのか、予定通り帰って来れるのかという心配から、旅行をスタートさせる事になりました。

私たちの乗った飛行機は、朝早い便でした。天候はまだ嵐の前の静けさで、多少の遅延はあったものの、無事に函館に到着しました。それから先の天気予報が“吹雪”だったので、まずロープウェイに行こうと向かったものの、入口前の看板には「強風のため運転見合わせ」との文字。運転再開を信じて待とうか迷いましたが、結局、夫のリクエストにより五稜郭公園へ移動することにしました。

今回の旅行の目的のひとつであった、幕末の新撰組ゆかりの地、五稜郭公園と五稜郭タワーを訪問。新撰組ファンの夫は、じっくりと中を見て回り、かなりご満悦の様子でしたが、私は歴史に疎いので少々退屈ぎみ。それでも五稜郭タワーに上って、雪に覆われた星形の要塞を見ると、私の気分も上向きになりました。敵からの防御の為にこの形状になったそうですが、その原型はヨーロッパにあり、各所にこういった星形要塞があることも興味深かったです。

往路の機中から下をのぞき函館を見た時、何だかロシアっぽいという印象を受けましたが、それは気のせいだけでは無かったようです。2 日目に行った郷土資料館では、サモワールやキリル文字のタイプライターがあったり、ハリストス教会・旧ロシア領事館など、ロシアに関係する名所があったりと、函館に対し妙な親近感が湧いてきました。

残念ながら、悪天候により有名な函館の夜景を見逃した私達でしたが、最終日にやっと天気に恵まれ、ロープウェイに乗って函館の景色を一望する事ができました。

吹雪の中の旅行を終え、次は 20 周年記念旅行について思案中です。

最近、思ったこと

奥田　美千代(ペテルブルグ連絡員)

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

最近、電子ブックにはまっています。今までは、一時帰国時に本を何冊も買い込み、ロシアに持ち帰っていました。そのため、帰国前には、どんな本を買うかネットで調べ、購入リストを作っていました。それが、数ヶ月前、スマートフォンで電子ブックを読めることを知り、アプリをダウンロード。最初のうちは英語の本しか買えなかったのが、しばらくすると、日本語の本も購入できるようになったのです。本当にワンクリックで手元に日本語の本が現れた時には、ちょっとした感動でした。一気に日本との距離が縮まったように感じました。あまりの嬉しさに思わず何冊も購入してしまい、現在、まだ全部は読み切れていません。でも、場所を取らず、おとなしく携

帯の中に収まってくれているので、有り難い限りです。お陰で、かさ張る本を持ち歩かずに済むようになりました。ロシア語離れは急速に進んでしまいましたが、…。次回の帰国では、紙の本をほとんど買う必要がなくなったため、スーツケースが本の代わりに食料品でいっぱいになること、間違いなしです。

まったく文明の利器は偉大ですね。つい最近も、知り合いに、ある眼科医院の場所を教えてあげることになり、長い間行っていなかったので、ネットで調べると、ちゃんとその眼科のサイトがあり、最寄り駅からの行き方まで載っていました。これは、今の時代ごくごく当たり前のことなのですが、感慨深いものがありました。なぜなら、私が初めてそこへ行ったのは今から十数年前、ネットが普及する前でした。当時、何故かペテルブルグにはハードコンタクトレンズを扱っている所がその眼科しかなく、大体の場所は教えてもらったものの、辿り着くまでにどれほど時間がかかったことか！その眼科へ行く途中には別の眼科もあったので、余計に紛らわしく、寒さに震えながら、何時間も歩いた記憶があります。それが今では、ネットですぐに見つかってしまう。何でも 2015 年には、ネフスキー大通り全体に WiFi が飛ぶ計画があるらしいので、もう道に迷うこともなくなってしまうのかもしれません。

血の上の教会の裏手

どんどん便利になって、海外の情報や物もすぐに手に入るようになり、外国が近くなっていく。このように世界が小さくなっていく時代の中での外国生活や留学の意義はどこにあるのだろう。私が留学生だった頃とは、その意味がかなり変わってしまったのだろうなぁというようなことを、ペテルブルグの地下鉄で満員電車に揺られながら、スマホで日本語の本を読みつつ、ふと考えてしまいました。

今年の漢字

荒川　好子（ペテルブルグ連絡員）

みなさん、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

ペテルブルク連絡員の荒川です。私は、JIC の仕事の傍ら、サンクトペテルブルク国立大学東洋学部の日本学科で日本語教師もしています（ぜひ日本語の授業に遊びに来てください。日本人学生の授業参加、大歓迎です！）。

12 月 12 日の漢字の日にちなんで、毎年、年末に「今年の漢字」と「来年の漢字」を学生たちと一緒に考えて、それぞれの漢字を教室に張り出しています。私の担当は 1 年生と 2 年生で、みんな夢と希望を抱いて勉強に励んでいるので、たいてい「今年の漢字」は「学」「勉」で、来年は勉強ばかりではなく遊びも楽しみたいという願いをこめて、「楽」や「旅」といった漢字が多いのですが、今年の学生たちの漢字を見ると、「駅」「寒」「韓」「鳥」「怠」「妻」など、例年には見られない漢字があって、おもしろいなあと思います。

左、筆者。学生たちが書いた「今年の漢字」の前で

「駅」「寒」というのは、数年前からのロシア統一試験導入で地方からの学生が増えた影響です。遠くからいくつもの駅で列車を乗り継いでペテルブルグまでやって来たのでしょう。また、南の地方から来た学生にとっては、ペテルブルクの冬は体験したことのない寒さなのだと思います。それでもがんばっている学生たちを応援したいと思います。「韓」は近年の K ポップブームの影響です。日本ではそろそろブームも下火なのかもしれませんが、ロシアではまだ健在です。

私の 2013 年の漢字は「変」で、14 年は「結」です。昨年、ほんの少し生活に変化がありました。1998 年にペテルブルクに来て以来 15 年、ロシアならではの問題にぶつかる度に文句をブツブツ言いながら、それでも淡々とマイペースに暮らしてきました。その生活にほんの少し「変化」が現れ、今年は今まで少しずつ頑張ってきたいろんなことが実を結んで「結果」が見える年にしたいと思い、この字を選びました。

2013 年のロシアの漢字は何でしょうか。2 月に起きたチェリャービンスクの隕石落下事件が私には印象的でした。なので、「石」でしょうか。今年は、ソチオリンピックが控えています。ソ連からロシアになって初めての国際祭典開催で、スポーツの力だけでなく、経済力・政治力・オーガナイズ力などロシアの力を試される年になりそうです。なので、「試」でしょうか。いずれにしても、ポジティブなニュースが多くなるといいのですが。

日本の平成 25 年の漢字は「輪」でしたが、今年の漢字は

どんな漢字になるでしょうか。みなさんの昨年の漢字は、どんな漢字でしたか？ 今年はどんな漢字で表せる年にしたいですか。

「アジアの純真」

後藤　正明（JIC 大阪）

みなさま、明けましておめでとうございます。

1 年はあっとゆう間にすぎます。ついこの前、新年あいさつ文を書いた気でいましたが、もうこの時期になったのかと時間の流れの早さに驚くばかりです。

ところで、みなさんには外国人の友達はいますか？僕にはまだ残念ながらロシア人の友達はいないのですが、韓国人、中国人、台湾人と、今や日本とは少し微妙な関係にある国々ですが、仲のいい友達がいます。

彼らと仲良くなるまでは、韓国も中国も台湾も僕の中では特になんとも思わない国で、どちらかと言えば、好きな国ではありませんでした。ところが、今から数年前日本人の友達に紹介されて出会い、またその友達と仲良くなりといった具合に男性、女性問わず仲良くするようになりました。自分には、留学した経験がなく外国人の友達と呼べる人は今までいなかったので、彼らと過ごすのはとても楽しく、良い経験となっています。

そういえば、最近はコンビニや飲食店などで中国人、韓国人などのアルバイトをよく見かけます。もし、自分が留学したらあんなことはできるかな？ いやできないだろうなと思います。異国でアルバイトをしながら、学校にも通い、日本人客と普通に談笑を交わすところを見るととても感心します。日本の接客は外国と違ってとても難しいような気がします。タイミングや、言わなくてもわかるだろ的なことも、日本人同士なら理解できることでも、彼らにはとても難しいのではと思いますが、そんなこともやってのける人が今ではたくさんいるので不思議に思います。コンビニで道を尋ねた時、中国人の店員さんからまだ拙い日本語でしたが、説明してもらったことがありました。本当に不思議ですが、今や彼らの方がある意味で日本のことを良く知っているのではと思うこともあります。

紅葉の箕面大滝

先に書いたように、これまで僕は韓国や中国・台湾に関して興味もなかったですし、旅行会社にいながら、どんな都市があり、どんな人が多く住んでいるかなど、何も知らなかったのです。しかしながら、友達ができてくると彼らの出身地はどんなところなのだろう、どんな人が住んでいて、日本からどのように行けるのだろう、など興味が湧いてきました。自分がそのような興味を持ち、そしてそのことを話題に出すと彼らもまた喜んでくれて、より仲良くなっていけます。

現在、韓国や中国とは残念ながら日本は決して良い関係とはいえません。しかし、たとえ国同士の関係が良くなくとも、自分にとっては、彼らは大事な友人です。またその大事な友人の住んでいる国々に今では、いろいろな興味を持ち、良い印象を持つようになりました。

これらの国は、ロシアを旅行するついでにも立ち寄ることができるので、僕も最近全くご無沙汰なロシア訪問のついでに、韓国、中国を訪れてみたいと思います。

2014 年もいろんな方と素晴らしい出会いがありますよう、今年も一日ずつ大事に過ごせればと思っています。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

近畿の水がめ、シベリアの真珠

山川　詩保子（JIC 大阪）

新年あけましておめでとうございます！

年が明け、いよいよソチオリンピックへの秒読み段階に入りましたね。昨年 2 月に訪露した際はちょうど開幕 1 年前ということで、モスクワでカウントダウンイベントをやっていたのが懐かしく思い出されます。毎年のことながら、あっという間の一年でした。

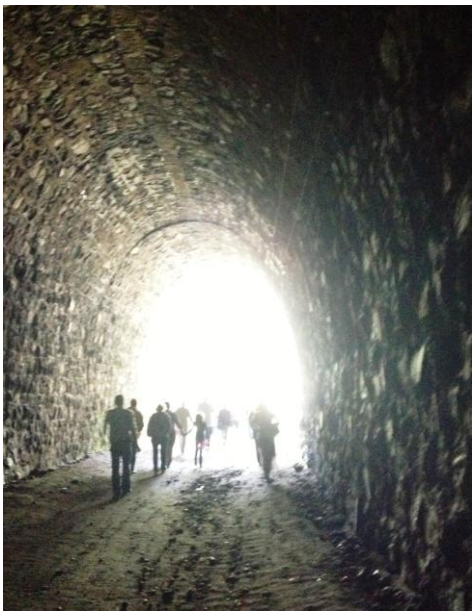
さて、昨年のロシアがらみでの一番の思い出といえば人生初のバイカル湖訪問でした。季節は 8 月、リストビヤンカにわずか 1 泊という短い滞在ではありましたがシベリアの短い夏の最後の一瞬を体験することができました。

モスクワには 10 数年住んでいたとはいえ、これまであまり

ロシアの地方に興味がなく、恥ずかしいことにバイカル湖どころかシベリアへ行くのも初めてというありさまで、「シベリアって、どうせ同じ景色がず～～っと続いてるんでしょ?!」くらいに思っていたのです。バイカル湖に関しても、日本一の琵琶湖のある滋賀県出身の私は、「ロシア一」というのがどんなものか見てやろうくらいに思っていたのでした。

しかし、今回の滞在でその先入観は崩れ、すっかり「シベリアの真珠」＝バイカル湖に魅了されてしまいました。シベリアに咲く色とりどりの草花の美しさと、どこまでも透明な水の美しさ。そこに生息する魚、とりわけ、くりくりおめめの愛らしいバイカルアザラシに心を奪われたのは言うまでもありません。しかしその反面、まだ 8 月というのに足を 1 分もつければ心臓がキュンとなり、奥歯がガタガタ言い始めるほど冷たいバイカル湖の水は、一瞬にしてその美しさと対照的な真冬の厳しさを連想させました。

今回の滞在中、バイカル湖岸鉄道に乗車する貴重な機会も得られました。バイカル湖岸鉄道は 20 世紀中頃までシベリア鉄道本線の一部だった区間を観光用として利用したものです。途中何度も停車と下車を繰り返しながら、約 90km の道のりをなんと 8 時間もかけてポートバイカル駅からスリュジャンカ駅までをゆっくりと進みます。この観光コースはよくプログラミングされていて、車内でも停車中もロシア語で周辺の見どころとシベリア鉄道を建設した当時の詳しい歴史などが解説されます。下車中は切り立った崖ぎりぎりに建設された線路や橋の上を実際に歩いたり、いくつものトンネルをくぐったりしながら旧跡に触れることができます。当時道具もない中、人力で掘り進んでいったという気の遠くなるような時間と労力の結晶として完成されたトンネルを進みながら、この鉄道の持つすさまじい歴史を重く感じました。



バイカルトンネル

わずか 90km 足らずのバイカル湖岸鉄道乗車体験は、周囲長が 2100km もあるバイカル湖のごく一部を垣間見ただけにすぎません。しかし、バイカル湖の広大さと美しさを知るには十分すぎる体験でした。

今年も皆さんの心に残る旅のお手伝いができるように頑張りたいと思います。

私をソチに連れてって

小西 章子(JIC 大阪)

あけましておめでとうございます。

いよいよソチオリンピックが来月に迫ってきました。世界一熾烈だったと評される日本代表選考会も終わりました。無類のフィギュアスケートファンの私は楽しみでたまりません。私は日本人なのでもちろん日本の選手たちを一番に応援するのですが、ここはインフォメーション誌面なので、ロシアにフォーカスしてみたいと思います。

3 歳の娘もフィギュア・ファン

ペア競技やアイスダンス競技では、相変わらずロシアは途切れることなく強さを見せているのですが、男女シングルではここ数年、なかなか世界のトップをとれる選手が出てきていませんでした。というよりも、実力はあるものの浮き沈みが激しくて、大事なところで実力を発揮できない選手が多かったという方が正しいかもしれません。でも今シーズンは違います。さすがロシア。ソチオリンピックに向けて国の威信をかけて選手育成してきた甲斐あって、頂点を狙える若手が続々と頭角を現してきました。そして輝かしい実績を持つ大ベテラン。様々な状況に置かれた選手たちがお互い刺激し合って、ロシアの強さを世界にアピールしつつあります。ロシア代表に選ばれた選手たちはいずれもかなりの実力者。でも、本当に、本当に、残念なことに、ロシア代表は男子 1 名、女子 2 名なのです。せめてあと 1 年早ければ！1 年前にこの状況なら、男子 2 名、女子 3 名はオリンピックに派遣できたかもしれない…、と今更言っても遅いのですが。このインフォメーションを手にする方は、何かしらロシアに興味をお持ちなのだと思いますので、ぜひロシアの選手たちにも注目して観戦してみてくださいね。

と色々書きましたが、実は、過去の号を振り返ってみると、4 年前、バンクーバーオリンピックが開催された年の挨拶でも、似たようなことを書いていました。歳をとっても子供が産まれても好きなものは好きです。今では 3 歳の娘も「まおねえちゃん！ゆづにいちゃん！」と言って一緒に応援しています。せっかく若かりし頃にロシア語を勉強したわけですし、このようなお仕事をさせてもらっているのですから、ソチで応援したい！という気持ちもありますが、色々な意味でハードルは高く…。家からそう遠くない場所に昨年新しいスケートリンクがオープンしたので、ひとまずそこに滑りに行って気持ちを高めてから(笑)、家で応援することになるでしょう。

日本とロシア・ソチの時差は 5 時間。競技は現地時間の 19～23 時頃なので寝不足は必至！2 月中に旅行や留学の相談にいらっしゃるかたは、目の下にクマがあろうが、少しテンションが高かろうが(笑)、どうぞスルーして下さいね。もちろん責任を持って対応させていただきます！

今年もよろしくお願いします。

アルバイトのKさんのこと

小原 浩子(JIC 大阪)

K さんは現在 40 代後半、ご自身の保険の代理店業のかたわら 2011 年に 1 年間大阪事務所でビザ取りのアルバイトをしていただいた方です。

奥様もお子様もいらっしゃって、代理店の仕事もあるのに、なぜ JIC でアルバイトを？と最初の面接で聞いたときに「時間があるのでロシア語を勉強しているのだけれど、なかなか上達しない。ロシアに興味があるし、ここは最適なアルバイト先だと思った」とのこと。

JIC での働きぶりはいたってまじめで、勉強のために大阪のロシア語講座にも参加していただきました。またイベントが大好きで、JIC のクリスマス会などでは車を出して荷物運びの手伝いをして、参加者と共にロシアの話で楽しそうに盛り上がっていました。ウラジオストクでホームステイ＆ロシア語研修に参加してもらった時には、「ステイ先のホストマザーに言い寄られた」と苦笑していました。

K さんは JIC でアルバイトをする以前、ウランバートルでモンゴル人研修生を日本に派遣する人材派遣学校を作るため、自身のお金を投資して現地に長期滞在していたことがありました。しかし結局、日本が不況でモンゴル人の派遣が必要なくなってしまったため、計画が頓挫してしまったらしいのです。投資したお金について「奥様はなんと・・・？」と尋ねたところ、「頭が上がりませんわ、…」と、K さんは頭をかきながら答えたのでした。

ウランバートル大学の入口

2012 年には大阪でビザ申請をしなくなったため、K さんにもアルバイトを辞めていただかないといけなくなりました。K さんは大阪事務所の引越に車を出して手伝いにきてくれて、そしてにこにこしながら「またイベントがあったらいつでも呼んでください」と言って帰っていきました。

今年はゴールデンウイークに、「大きな契約ができて儲かったので、久しぶりにモンゴルに行きます」と言って、航空券を購入していただきました。つてを頼ってウランバートル大学にロシア語研修に行ったのです。モンゴルでは知識人でロシア語を話すことができる人がまだ多く、帰国後自分のロシア語が通じたことを本当に嬉しそうに報告してくれました。そして「昔のつてもあるし、ロシア語を駆使して将来はモンゴルの関係で保険の契約をとりたいですねえ」と夢のような話をしていたのでした。

ところが先日挨拶に見えた時、保険会社の合併の余波で保険代理店を廃業しないといけなくなりそうだ・・・と話されたので、「え、失業じゃないですか？」と驚く私に、「そうなんですけど、どうなるんでしょうね・・・」と飄々とおっしゃったのです。「自分は運だけでここまでやってきたんですよ。人生、運です！」と言う K さん。K さんにとって、来年はどんな年になるのでしょう？ モンゴルの保険でひと山当てて儲けたんですよ…、というような楽しい話がまた聞けるといいのにと思う私です。

2014 年がみなさまにとっても、素敵な夢が見られる年になりますように。

ロシアでつながっていた“縁”

佐藤 早苗(JIC 東京)

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

小学校時代、とても仲良しの友達がいました。家が近かったので、毎朝一緒に登校し、休みの日にはお互いの家を行ったり来たりして、ほとんど毎日のように遊んでいました。その友達の名前は「山口ミルコちゃん」といいます。

クロアチア、ドゥブロブニクにて

「ミルコちゃん」－あまり聞きなれないその名前の由来は、ロシア語の мир(ミール、平和)からきています。総合商社に勤務し、当時ソ連貿易に携わっていたお父様が名付けたそうです。

6 年生の夏、私が父の転勤で引っ越してからも、しばらくは文通をしていた記憶がありますが、それもいつの間にか途切れてしまいました。その後は連絡を取ることもなかったのですが、7-8 年前に、五木寛之さんのラジオ番組にゲスト出演していたと母から聞き、幻冬舎という出版社で編集者をしていることを知りました。「ミルコちゃん、元気に活躍しているんだぁ」と嬉しく思ったのを覚えています。

そして昨年 11 月の思いがけない再会。それは JIC のイベント（ロシア・セミナー＆留学相談会）でのことでした。数十年ぶりに会ったミルコちゃんは、昔の面影そのままで、全然変わっていませんでした。

「一体なぜ JIC のイベントに??」と尋ねたところ、「ずっと自分の名前のルーツであるロシアに行きたかった」とのこと。去年の9月にサンクトペテルブルグとモスクワに行き、この 1 月には厳寒のウラジオストクとハバロフスクにも行く予定だそうです。今は出版社を退職し、フリーライターの仕事をしているそうで、ロシアについての本の執筆も構想中とのこと。その取材のため今年の春までに再度ロシアを訪れる予定だそうです。

私達を再び引き合わせてくれた「ロシア」という存在。ミルコちゃんと出会った頃は、もちろん自分が後々ロシア語を学ぶことになるとは夢にも思っていなかったので、つくづく縁とは不思議なものだなぁと思います。

この原稿を書いているのは 12 月中旬ですが、再来週には、ミルコちゃんと小学校時代を過ごした千葉の我孫子を訪れる予定です。当時の我孫子はまだ空き地がたくさん残る、新興住宅地でしたが、今はどんな姿になっているのでしょう。私が住んでいた家も健在のようで、今からワクワクしています。

古道のロマンを求めて

モロゾフ　デニス（JIC 東京）

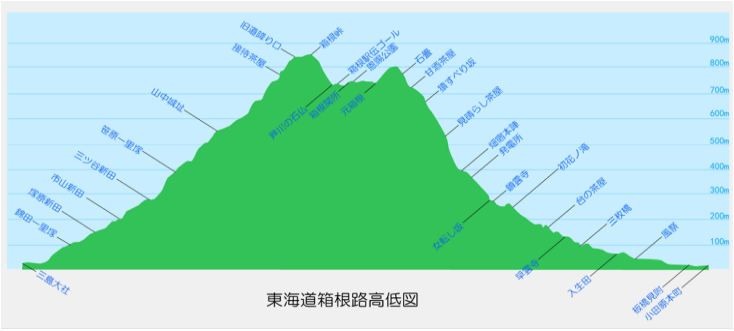
明けましておめでとうございます。

昨年から「歴史のロマン」を味わう歩き旅にはまっています。最近ガイドとして働く機会がちょこちょこあり、ロシアのお客さんからあれこれと日本の歴史背景に鋭く迫る質問をよくいただくので、勉強と個人的な趣味を兼ねて都内の様々な地区を徹底的に歩き回るようになりました。昭和の古き良き時代を感じさせる谷中・根津・千駄木（いわゆる谷根千）、下町の「人情」を肌で感じられる葛飾柴又、歌舞伎発祥の地である浅草猿若町、江戸幕府唯一公認の遊郭「吉原」があった千束など、時に古地図を覗きながら、当時の出来事を想像して歩いています。

その中でも一番記憶に残るのは、12 月中旬に歩いた旧東海道の難所、箱根街道です。

ご存じのように、小田原宿から中継地である畑宿、箱根関所を経て三島宿までは、「箱根八里」と呼ばれる街道でした。現在の単位に計算し直すと、約 32 キロの山路です。どれだけきつい山を登るか、右の図を見れば一目瞭然。

右にある海抜 100 メートル付近の「三枚橋」からひたすら坂道を登り、800 メートル付近の「石畳」峠を越えてから 700 メートルにある「箱根関所」にたどりつきます。とくに大変だったのは、畑宿～箱根関所（芦ノ湖付近）間の山越え区間だったようです。この区間には江戸時代に作られた石畳みの道が今もしっかりと残っています。



東海道箱根路高低図

歴史を足で感じるのに持ってこいの場所！ということで、私も友人とともに挑戦する事にしました。歩くコースは、ロマンスカーの終点である箱根湯本駅～畑宿～芦ノ湖、関所跡近くの杉並木までと設定。距離にしておよそ 15 キロの道のりです。

木枯らしが吹き荒れる冬の朝、9 時半に箱根湯本駅を出発しました。現在の箱根街道は車がひっきりなし行き交う狭い道なので、ルートの一部を変え、湯本の町並みを楽しめる道を選択。伝統的造りの老舗・蕎麦屋「はつはな」や旅館「萬寿福」の横を通り、湯本の温泉街のくねくね道をひたすら歩きます。最近「恋愛のパワースポット」としてもてはやされている玉簾の滝を一目見てから緩やかな坂道をさらに登っていきます。

玉簾の滝。平日の朝にも関わらず、二人一組の若い女性客数組を目撃。はたして効果の方は？（笑）

山の中腹にある鎖雲寺からやっと車道を外れて「須雲川自然探勝歩道」という長たらしい名前の山道に突入。木漏れ日が綺麗で、歩きやすい道でした。1.7 キロ歩いたところで、今では「箱根寄木細工の里」と呼ばれて、ちょっとだけ栄えている「畑宿」に到着。天気がいいの

はここまでした。真冬の雲にすっぽり覆われた山から非常に冷たい風が吹いてきました。

ゆっくり見学する余裕もなく、集落のすぐ裏にある江戸時代から残っている貴重な「一里塚」を横目に、待ち望んでいた箱根旧街道に足を踏み入れました。

これこれ！これを見たかったよ～！

石畳を歩くのは思ったよりずっと辛かったです。デコボコだらけで、大量の落ち葉に覆われている道は、少しでも目線をそらすとすぐさまこけて倒れそうになります。それでも、「数百年に渡ってたくさんの人がこの道を歩いたんだなぁ！」という感慨が湧いてきて、少し歩いては写真を撮り、また歩いては写真を撮るの繰り返しで、とことこと山を登っていきました。

七曲という難所を越え、サルでも落ちると言われたほど急な「猿すべり坂」（残念ながら今はただのきつい石段）も無事にクリアーし、海抜750メートル付近では体感気温マイナス5度の強風に煽られながらも辿り着いたのは救世主とも思える「甘酒茶屋」でした。

あたたか～い甘酒と味噌田楽、そして様々な薬草が入った特製の麦茶でやっと生き返りました。この茶屋が400年もの間、旅人に一時の安らぎを与えてきた事を肌（正確には胃袋ですが）で感じ取りました。旅人の疲労がピークに達するまさにその時に、突然目の前に現れるという絶妙な位置を選んでこの茶屋を建ててくれた昔の人にただただ感服です！

甘酒＆ふきのとう漬物
今まで一番うまかった！

甘酒茶屋から芦ノ湖までは約3キロの緩やかな上りと下りを繰り返す坂道が続きます。ただ、最初のほうの道と比べて石の置き方がだいぶ雑になった気がしてなりません（笑）。下り坂のデコボコが凄過ぎて、まるで無料の足裏マッサージを受けている感覚です。歩きづらいといったらない。ちゃんとしたスニーカーを履いてもこれだから、草履や草鞋を履いて旅をしていた昔の人を思うと、やはり気の毒です（笑）。

上から見ると意外とゆるくないぞ、この坂道！

ラストは、旅人に木陰を与えようと、1618年に人工的に造られた箱根杉並木を散策しました。樹齢500年の木に囲まれて、達成感に浸っている自分でした。

甘酒茶屋の休憩時間を含めて、「東海道きっての難所」である畑宿～芦ノ湖の旧街道を3.5時間で歩ききりました。

今年はどんな道を歩こうかな～。どんな道であっても楽しい道であればいい！これが自分なりに見出した「旅の極意」です（笑）。みなさんも素敵な旅道にたくさん巡り合えますように！

飛騨高山観光

竹村　貢（JIC東京）

あけましておめでとうございます。インバウンド部の竹村です。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は、インバウンド部の研修で 10 月に松本～高山～白川郷～金沢を巡ってきました。最近、このルートを旅行す

高山市・上三之町（重要伝統的建造物群保存地区）

るロシアの観光客が増えてきているため、実際に体験することにしたのです。どの街も、食事がおいしかったり、歴史の勉強になったりでよかったのですが、今回は飛騨高山について書かせていただきます。

高山の中心部の観光は、徒歩で散策することができます。宮川朝市～櫻山八幡宮～高山屋台会館～櫻山日光館～日下部民藝館～高山昭和館～高山陣屋の順に廻ってきました。以下、興味がありましたら参考にしてください。

・宮川朝市

漬物や野菜の出店が多く、漬物の試食などできます。『買わないでいいから試食していきな』って言葉につられて、つい買ってしまいそうになります。

・櫻山八幡宮にある高山屋台会館

高山祭に使われている屋台（山車）がいくつか展示されています。巫女装束をした案内ガイドさんが、屋台を作った匠の技術を詳しく説明してくれます。

屋台の一つに仙人台というのがあります。仙人の操り人形が乗っています。明治初期までは、女性の操り人形も一緒にあったそうです。なぜ、今はなくなってしまったのか。もとは仙人が、洗濯する美女の美しさに見とれて雲上から墜落する仕掛けのからくりだったのですが、けしからんということで仙人だけとなってしまったようです。明治の人たちは生真面目だったのですね。確かに、そんなことする仙人では、ただのじじいになってしまいますからね。いろんな屋台があり、実際に動いている屋台が見たくなります。

・日下部民藝館

明治初期に作られた商家。江戸時代そのままの建物構造で国の重要文化財です。中庭でお茶と煎餅がいただくことができ、歩き疲れた時にいい休憩ができます。

・高山昭和館

昭和時代のコレクションが満載。入口にはレトロな車（ダイハツのミゼットなど）が数台並べられています。昔ながらの食堂や床屋、電気屋のセットがあり、壁に掛けてあるもの、通路のあちこちに置いてあるすべての物がなつかしい昭和を思い出させてくれます。思い出に浸りたい方も、そうでない方も是非足を運んでみてください。

・高山陣屋

幕府の天領だった高山を統治した代官所。広すぎて迷子になりそうです。

高山の街を歩いていると酒蔵が多く、入口の上に茶色い大きな玉がぶら下がっています。見る度に、あの玉って何の為にあるのだろうと思いました。Wikipedia で調べてみると杉玉とか酒林と呼ばれていて新酒ができたことを知らせる役目があるようです。

見知らぬ土地に出かけることで、新たな発見や感動があります。今年はどんなことに巡り会えるか楽しみです。

みなさんもいい巡り会いがありますように。

「自転車に乗って」

鶴田　ゆり（JIC 東京）

明けましておめでとうございます。

最近私は自宅周辺の地図を眺めていることが多いです。「この道を進むと、この交差点にぶつかるのか」、「ここは交通量が多いから避けたいなぁ」、そんなことを考えながら眺めます。なぜ地図を眺めているのかというと、週末に夫と自転車で出かけることが最近の楽しみになっているからです。

自転車で出掛けるというと本格的なスポーツ用の自転車を連想されるかもしれませんが、乗っているのはママチャリです（笑）。ブレーキの調子が良くないので修理に出したら、「この自転車は時間が経つとこうなりますよ」と自転車屋さんに苦笑いされてしまうくらいの、消耗品用のママチャリです。もちろんギアも付いていません。

長い時間漕いでいると翌日筋肉痛になってしまうので、無理はしないで大体 10 キロくらいを目安にしています。車通りの少ない道をのんびりと走っていると、途中で色々な発見があります。ケーキ屋さん、カフェ、レストラン、お蕎麦屋さん…等々。景色を楽しみながら、ぶらぶらと自転車で散策します。

きっかけは DIY で棚を作ることになり、注文しておいた木材をホームセンターまで受取りに行ったことでした。車はもちろん免許すら持っていない私と夫。たくさんの木材を自転車のかごに乗せて家まで運びました。喫茶店に入って休憩しつつ、回り道しつつ…、車だったら 30 分くらいで終わる買い物を、のんびり 3 時間くらいかけて終えました。それ以来、自転車散策が週末の楽しみになりました。

この自転車散策は、旅行している時のような気持ちにさせてくれます。近所をうろうろしているだけなのに、ちょっと意識を変えるだけで、まるで知らない土地を旅行しているかのように感じるのです。たまたま入ったお店が期待外れだったり、好奇心で選んでみた小路が行き止まりだったり、全部が思い通りになるわけではなく、がっかりすることもあります。で

一畑電車に乗って出雲大社に行ってきました

も旅行気分で散策しているので、それも旅の醍醐味と同じだなあと楽しんでいます。

JIC のツアーはフリータイムが多いので、オプショナルツアーを付けていなければ、お客様自身で観光していただくことになります。初めてロシアへ行く方は、地下鉄に乗るのに苦労したり、レストランで注文するのに緊張したり、道に迷ってしまったり、スムーズにいかないこともあるかもしれません。ですが苦労したことも含め、ひとつひとつの出来事がお土産話になり、思い出深い旅行にしていただけると思います。初めての方も大歓迎です。ロシアに興味のある方は、是非 JIC へお問い合わせください！

星降るところ

百瀬　智佳子（JIC 東京）

新年明けましておめでとうございます。

昨年に続きまして今年もまたひとつ年をとる予定です。そんなこんなで気がつけば、時代の変化が身にしみるほどの年を重ねて参りました。特に、子供時代から久しぶりの再会となるものには、戸惑うことしきりです。教室と廊下の間に壁がない小学校。プールはなぜか屋上に。ピアノを習えばバイエルを使わない。などなど。驚きは数知れずですが、今回は思いがけず楽しい再会となった素晴らしいアイテムをご紹介します。

それは「プラネタリウム」。

田舎育ちの私が初めてプラネタリウムを体験したのは 10 歳の時でした。澄んだ星空に馴れた私にとっては、当時のものはただの質の悪い「偽の空」。何が楽しいのかさっぱり理解が出来ませんでした。

しか～し、今のプラネタリウムは違う！

映画みたいな作品が上映されている事にまず驚きました。そしてその臨場感。椅子を倒して仰向けになり、天井を広く使って映し出される映像に囲まれると、世界が立体的に感じられ、遊園地のアトラクションみたいです。もちろんソフトは少ないし、色彩がくすむなど、映画館より劣るところは多いです。が、「映像を観賞する」目的で発展した映画館に対して、プラネタリウムは「臨場感の追求」から発展していますので、その良さはまるで別物なのです。

また、昔ながらの星々の投影もとても美しい。先日は久し振りに昴（すばる）を見ました。星がくちゃっと集まった星座で、田舎では、冬の暗い夜なら 6 個くらいは見えたものです。残念ながら東京の空は明るくて、昴やほかの星たちはあまり見えません。確かに空気はかつてより質が良くなり金星などとてもきれいですが、観測に使えそうな広い公園には深夜でも電灯が輝いていて、小さな星を見るのは難しいです。そんなわけで、本当の空を楽しむために、旅先では折あれば夜空を見上げることにしています。星空はそのシチュエーションとともに、旅の良い思い出になります。モンゴルの草原に寝転がって見た広い空、アルメニアの山中で車中から見た深い空。妙にきらめいて見えたのは、ボルガ川のクルーズ船からの眺めです。私の旅はいつも晩秋ですが、この時だけは晩夏だったので、夏の華やかな星座が残っていたからかもしれません。

「この空はどこまでもつながっている。君と僕は離れてもつながっているよ」というのはドラマ等でしばしば使われる台詞。確かに空はつながっていますが、その見え方は国により土地により、日によっても様々です。

皆様も折あればぜひ夜空を見上げてみてください。今この場所でも、旅の空の下でも。そしてあいにく暗い空もなく旅に出る時間もないかたは、とりあえずプラネタリウムをお試しください。忘れていた何かと、新しい何かを教えてくれる素敵なところです。

解熱発熱発熱発熱

金井　義彦（JIC 東京）

パスポートを持って旅へ出るというのは長い病気だったのか。何かに取り憑かれたように飛んだり船に乗ったりしていたがその熱も冷める時がやって来た。バルカン半島をふらふらしようと思い、乗り継ぎ空港の夜、次のフライトを 5 時間ただ待ち続けていた。そもそも飛び発つ前からなんとなく気分は落ち込み、この旅へ行くのは気が進まなかった。旅行に出る度、フライト数日前からはそんな気持ちになる事も多いのだが、日本を出国してしまえば、飛行機に乗ってしまえば、気分は切り替わる。しかし今回に限ってはモスクワ、ドモジェドヴォ空港のどんよりとした異国雰囲気が心のスイッチを益々「陰」に切り替えた。初めての町に到着する時間が深夜というのも陰気分に拍車をかける。夜のドモジェドヴォ空港より更に陰気な深夜のバルカン半島旅開始地空港、怪しい客引きに言われるがまま車に乗り込み宿まで送ってもらう。ドライバーは買ったばかりのカーナビを使いたくて仕方ないようで、ナビに忠実に進むがあまりその精度の悪さに振り回されてなかなか宿にたどり着けない。ナビに従って同じ所をぐるぐるぐるぐる回りながら真っ暗な住宅地の宿へ。やっとベッドに横たわる事ができた。疲労困憊でぐっすり眠ってしま

えれば気分はリセットされたのかもしれないが全く眠れない。落ち込んだ気分は自分が日本から遠く離れている事実を強く明確にして急に不安にさせ、怖さも引き連れてきた。陰気と不安が心を押し潰そうとし、鼓動は早くなり、灯りを消したベッドの上で一睡もできずに朝になってしまった。この状態では旅を続けられないと思い、もし旅を続けても何も感じられないとも思い、そもそも移動する気力が無い。窓の外、しとしと雨の降る空を見ながら「もう日本に帰ろう」と思った。もしかしたらこの日が快晴だったら結論が違っていたのかもしれない。一刻も早く帰りたかったので早朝の空港で航空会社カウンターが開くのを待ち、帰国便片道チケットを売ってもらう。残念ながら既に購入済みだった帰国チケットは無駄になる。帰国中も帰国後も後悔は全く無く、なにが不安だったか原因はわからなかったが、帰国後翌々日に高熱が出て寝込んだ。旅を続けていたらバルカン半島のどこかで寝込んでいたのだろうか。

撮影地：山形

そして懲りずにまた飛んでいた。旅へ出られる心を「病気」と呼ぶのか「健全である」と言うのかで捉え方が全く逆になるが、自分の中では「リハビリ旅」と称して。どうやら「旅する病」は再発したらしい。南の島へのリハビリ旅では不安が襲ってこなかった代わりに一匹の蚊に襲われた。狭い部屋で蚊を叩いて仕留めたら、血をたくさん吸われている。リハビリ旅帰国後ちょうど一週間経った夜、突然の高熱で動けなくなった。悪寒だとか、戦慄だとか、目の奥が痛いだとか、マラリアの症状と数々一致していて不安だ。発熱したまま専門病院へ向かう。下がってほしい、こっちの病気の熱は。

運動しよう

柳沢　昭子（JIC東京）

明けましておめでとうございます。昨年は本当にみなさまにお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2013年は病院のお世話になることが少しだけ続きました。目に違和感があるなと思っていたら眼帯をはめることになったり、急に全身に蕁麻疹（じんましん）が出たり。よく虫に刺されるなと思っていたら、そうではなくて、また蕁麻疹を発症していたこともありました。医師に言われることは決まっていて、「不摂生を改めるように」とのこと。「十分な睡眠をとって、栄養のあるものを食べること」とも。年配の先生からは、「自分が病人であることをよく自覚するように」と諭されました。

いい大人になってこんなことを指摘されるなんて、と思ってしまいました。そこで、ごく最近ですが、スポーツジムの会員になりました。生まれて初めて‘スポーツジム’という場所に行きましたが、意外なことがいろいろとありました。何といっても、通っている人の年齢層が幅広いこと。若い人はもちろん、おばさま、おじさまが多いように感じました。スポーツジムに通っているおばさま、おじさま方は、身体がしなやかで、その辺の若い人よりも動ける身体をされているように思いました。健康を意識している人ってこんなに多いんだなと感じましたし、みなさんからいい刺激をいただいています。

ナイジェリアにて

スポーツジムに通うメリットは、この「刺激を受ける」、ということも大きい要素なのかもしれません。また、ジムでみなさんがストイックに運動している姿をみていると、自分はたいして動いてもいないのに、動いたような勘違いをしてしまうことが時々あります。スポーツジムの会員になったからと言っても、運動しなければ何にも変わらないことも改めて実感しています。通い始めたものの、仕事で疲れてしまった時は、今日は自宅で休んでしまおうとか、今日は運動したくないなとか、私にとってはスポーツジムに行くことがまず戦いです。なんとかスポーツジムにたどりついても、やっぱり気が乗らなくて予定よりも早く切り上げることもあったり、逆に張り切りすぎて、立っていられなくなり、ふらふらとしてしまうこともあったり。それでも、運動した日はいつでも気持ちよく睡眠を取ることができるようになりました。

身体が丈夫だと心もなんとか元気でいられるような気がします。2014年も健康を意識して、身体を動かすことを続けていけたらと思います。

新たな価値を探して～ラーメン食べ歩き

神保　泰興（JIC東京）

あけましておめでとうございます。

実は、私の密かな(??)趣味の一つはラーメンの食べ歩きです。昨年も勤務の合間にあちこち訪ね歩きました。先日は、ロシア人の知人達とともに、一日がかりで、日本で一番行きにくいところにある行列店として名高い、千葉の「ラーメン八平（はちべい）」に行ってきました。都内を車で出発。首都高速を抜け、東京湾アクアラインを渡り、圏央道に入ります。市原鶴舞ICで高速道路を下り、そこから車がすれ違うのがやっとの山道をさらに数キロ入った山間部。住所を頼りに設定

したカーナビは途中から役に立たなくなり、いくつかの手書きの小さな看板と嗅覚(？)を頼りに、やっとの思いで、伝説の「ラーメン八平」に辿り着きました。

とても飲食店があるとは思えない山間部の田んぼに囲まれた場所に、杉皮葺きの古民家を改装した建物。とてもラーメン店とは思えない外観です。駐車場には、関東近県に加えて、仙台などの遠隔地ナンバーの車もちらほら見えます。すでに昼時を過ぎていましたが、店外の順番待ちベンチに通されました。店内に目をやると、80 代位のお婆さんとふたりのお嬢さんが切り盛りしています。聞けば、店主のご母堂と令嬢たちとのこと。都内の行列店のような喧騒はなく、何か時間がゆったりと過ぎていくように感じられるのは、周囲の田園風景のせいでしょうか。

アリランチャーシュウラーメン

30 分ほどで、待望の一杯が芳香(??)を纏って運ばれてきました。「アリランチャーシュウ」大 1000 円。濃口醤油ダレのスープに、玉ねぎとすりおろしニンニク、自家製ラー油が濃厚なコクを与え、具材にもたっぷりの飴色玉ねぎとホクホクのニンニク、さらに刻みニラが香ばしさを添えています。圧巻は、丼を覆い尽くす、ふんわり柔らかな厚みのあるチャーシュウが 5 枚。濃いスープによくなじむ中太麺をリフトすると、立ち上る湯気。レンゲを口に運ぶと、鶏ガラ、豚肉、濃口醤油と香味野菜の四重奏の後に、ピリリとした刺激が追いかけてきました。スープの濃厚さをまろやかな辛みがほどよく中和してくれます。レンゲで何度掬っても尽きない具材は、店主の良心を表しているかのようです。甘美な時間は瞬く間に過ぎ去り、満ち足りた思いで丼の底を眺めることができました。至高の一杯は、都内から片道2時間かけてやって来たことを忘れさせるだけの価値がありました。

モスクワ発パリ行き国際列車の前で

日本におけるラーメン文化は、ここ 10 数年の間で、急速に深まったように思います。ちょうど和食がユネスコの無形文化遺産に指定されました。ラーメンは中国が発祥といわれますが、日本に渡って以来、醤油・塩・味噌ダレと、鶏ガラ、豚骨、煮干しなどの出汁とのハーモニー、縮れ・平打ち、細麺・太麺などの巧みな組み合わせ、そして、豊かな山海の具材との調和で、進化と分化を遂げており、間違いなく和食の一ジャンルとして、日本が誇るべき観光資源の一つとなったのではないかと思います。

インターネット時代にあって、旅行会社の存在意義とは、ロシア旅行でも訪日旅行でも、まだ多くの人が気付いていない価値あるものを探し出し、お客様に提示していくことのように思います。今年も宜しくお願い致します。

アラビアの休日

中林　英子(JIC　東京)

旅の印象は天気によって大きく変わります。街、景色の色が違います。

昨年はモスクワで世界陸上がありました。テレビ放送のマラソン中継で映されるモスクワは、世界のどのマラソンコースよりも美しいのではないかと思うほどでした。空の青、クレムリン城壁の赤、教会の白と金、森の緑は鮮やかで、本当に絵になる美しさです。雀が丘の森の中からモスクワ大学を臨み、だんだんと市内中心部へと向かい、ハイライトのクレムリンまで行くモスクワ川クルーズと同じ景色です。私がここ数年モスクワを訪れたのはずっと秋か冬だったので、夏のモスクワが懐かしくなりました。最近はモスクワも 30 度を超える暑さになることが多いようですが、ロシアの夏は短いのでどんなに暑くても貴重な時期にかわりありません。

昨年は日本も猛暑だったようですが、毎日オフィスにいると四季の変化も感じなくなってきます。夏のお客様の旅行手配が一段落すると、ひと息ついて今度は私もどこかに・・・という気分になってきます。が、そのころはもう秋です。外を見ると雨、モスクワの天気予報も毎日雨模様。これでは気分も晴れません。

そこで、雨が降らないところを条件に選んだ場所は UAE のアブダビ。町の周りは砂漠なので雨は年に 1 回か 2 回降るか降らないか程度のはずです。青空を見れば気分はリフ

レッシュできると思い飛び立ちました。予想どおり毎日快晴です。空の青と海の青、整った街並みにナツメヤシの並木道、太陽の光に輝くビル、未来都市に来たかのような感覚でした。ビル群の間をタイムマシーンや UFO が飛んでいてもおかしくないような風景です。昔ながらの古い名所旧跡ではありませんが、すべてが新しくて整っていて清潔というのが街の特徴で見どころだと思いました。

アブダビの観光名所であるシェイク　ザイード　グランドモスクも 2007 年に完成したばかりです。真っ白の巨大なモスクは息をのむ美しさです。内部は 80 個のドーム、約 1000 本の柱、直径 10mの 24 金メッキのシャンデリア、大理石に世界最大のペルシャ絨毯と、産油国の豊かさを表すかのように豪華です。

今まではなじみのあるロシアやヨーロッパを訪れることが多く、それ以外の地域に行くことはありませんでした。今回、初めてアブダビを訪れて、見るものすべてが珍しく、違った次元にいるようでした。異国情緒溢れる街の雰囲気とともに、治安の良さにも驚かされました。どこを歩いても浮浪者を見かけず、イスラムの国なので酔っ払いがいないのもうらやましく思うことでした。静かにアラビア湾に沈む夕日を見ながら再訪できることを願いました。

皆様も良い旅に出会えますように。今年もよろしくお願いいたします。

タリンに来てください！

トカチェンコ　ドミトリー（タリン大学大学院生）

2014 年明けましておめでとうございます！

去年は、あらゆるイベントでいっぱいでした。特によい思い出になったのは、森村誠一さんと池辺晋一郎さんが同行する日本の合唱団がロシアを訪問し、モスクワとペテルブルグでカンタータ「悪魔の飽食」を歌ってくれた仕事を一緒にやったことです。合唱団は、これからの日本とロシア、全世界の諸国の相互の友情のために努力をしてくださいました。普通の仕事ではなく、今回は「使命を帯びた」仕事と感じましたので、成功してとても嬉しく思います。

さて、2014 年に入り、クリスマス雰囲気ゆかしいエストニアのタリンからご挨拶を送ります。

タリンをはじめヨーロッパ各地の町では、伝統的なクリスマスマーケットがあります。クリスマスが近づくと、町の中心部にクリスマス・ツリーが立てられ、その周りにクリスマス・グッツを商売する露天が現れるのです。タリンのクリスマス・マーケットをご紹介したいと思います。

マーケットは 2013 年 11 月 22 日から 2014 年 1 月 7 日まで営業します。場所は、旧市街の真ん中に位置するタリン役所広場（Raekoja plats）です。現在のタリン市役所は違う場所にありますが、中世時代にはこの広場に役所の建物

タリンのクリスマスマーケート（役所広場）

があり、いまは博物館になっています。600 年以上前に建てられたこの建物は、現存する北欧唯一のゴシック様式建造物です。

建物の上にそびえる尖塔には、タリンを守ってくれている兵士で、「老人のトーマス」と呼ばれる金属製の風見が見えます。中世のタリンでは、弓の精度を競う競技がよく行われました。タリンの門のちかくの庭に木造のオウムを立てて、貴族の射手が競争しました。ある時、オウムを立て射手が弓を引き絞っただけで、突然オウムが誰かの矢で倒されたことがわかりました。確認すると、貧しい若者のトーマスでした。貧者がやっては行けないことをしたために、トーマスは貴族に怒られましたが、噂はタリン中で喧伝されました。こうしてトーマスは町の「目明かし」になりました。これは貧者には想像もできないほどの光栄でした。トーマスが年をとり、大きな髭をはやすと、その姿は役所の塔の上に見える風見の兵士に似てきました。こうして、風見の兵士が逆に「老人のトーマス」と呼ばれるようになりました。

老人のトーマスを見ながら、役所広場を回ってみましょう。広場の奥に、サンタクローズの家（Jõuluvana maja）がみえます。自分の願いごとを紙に書いて、サンタクローズの郵便箱に入れれば、願いが叶うでしょう。広場の真ん中にあるクリスマス・ツリーに手紙をつける人も多いですよ。サンタクローズの家の反対側では、サンタクローズのトナカイが干し草食べています。広場で一番多いのは露天です。冬用の衣類をたくさん売っています。羊毛のセーター、オーバー、手袋、帽子、靴下などです。温かい服を買っても、寒いときにはホットワインがお薦めです。アルコ

ール、ノンアルコールの 2 種類があります。喉を暖めてさらに町の散歩を続けましょう。
皆さん！是非、タリンに遊びに来て下さい！

ロシアの冬を経験する町、コストロマ

チスティリーナ イリーナ(JIC モスクワ事務所)

皆様、明けましておめでとうございます。昨年はいろいろとお世話になりました。今年もよろしくお願い致します。

12 月のモスクワには湿った雪が降って、融けた雪が泥道を作り、太陽があまり出ない憂鬱な日が続きました。なのに、ロシアの地方の人たちは真っ白くて、華やかな冬景色を楽しんでいました。泣くほど羨ましいと思いました。

「モスクワから出てゆけ！」と、グリボエードフの「知恵の悲しみ」の主人・チャーツキが言ったように、新年休暇を利用してモスクワから逃げ出そうという考えを起こし、友達と一緒にコストロマへ行くことに決めました。

コストロマはロシアの歴史的な古都の一つです。モスクワの北東約 400km のヴォルガ川畔の高い丘の上に建設された町で、ヴォルガ川が弓のように湾曲しています。

コストロマには、クレムリンの代わりに、住人が好んで散歩

に訪れる市民公園があります。公園の近くにコストロマの中心的な広場であるスサーニン広場と商店街があります。この広場は焼鍋の形みたいなので、「焼鍋の広場」と呼ばれています。驚くのは商店街がはやっていることです。店では魚や野菜やプリャーニク(ロシアの焼き菓子)など、いろいろなものが買えます。スサーニン広場からは七つの幹線道路が放射状に伸びています。

コストロマにはたくさんの古い建築物が残っています。有名なのは 1330 年に建設されたイパティエフ修道院です。17 世紀初頭、ポーランド軍に侵略されたとき、コストロマの農民イワン・スサーニンの活躍で町は占領軍から解放されました。ロマノフ朝を興したツァーリ、ミハイル・ロマノフは少年時代に修道院に隠れ住んでおり、モスクワから来た使者にツアーリに推戴されることを告げられました。

ソ連時代、イパティエフ修道院は閉院されていましたが、幸いに破壊を免れ、ロマノフ家の贈呈品の大きなコレクションがあるコストロマ歴史博物館と木造建築博物館が院内に開館されました。

もう一つ、コストロマで人気のあるところはスネグーラチカ(ジェド・マロースの娘)の家です。スネグーラチカの家には氷の部屋があります。全ての道具、像が氷で作られています。一年中、この部屋の温度は-14℃に保たれており、暖かい時期にはお客さんは暖かいコートとヴァーレンキ(極寒用の靴)を貸してもらいます。子供は冷たいシェークカクテル、大人は伝統的なロシアの蜂蜜ビールを飲むことができます。

自然が好きな人は古都から 20 キロ離れている大鹿牧場を訪れてください。現在、牧場では 40 頭の大鹿が飼われていて、パンを大鹿に食べさせることができます。大鹿のミルクは健康に良くて、消化性潰瘍の治癒効果があるそうですが、9 月から 3 月の間は大鹿の乳は絞れません。ミルクは少し変わった味がするといわれています。

皆さん、ロシアの本当の冬を経験したいときは、コストロマに行ってみてください！

＊ ＊ ＊

コストロマにはいろいろなロシア料理のレストラン、カフェがあります。私の意見では面白い店は下記の通りです。

1.「角と蹄」
日本であまり知られていないロシア作家、I.イルフと E.ペトロフの「十二の椅子」、「黄金の子牛」をモチーフにしたカフェです。ウェーターはこの物語の主人公であるオスタプ・ベンダーの衣装(帽子とスカーフ)を着ています。いろいろな種類のケーキ、コーヒー、紅茶が売られています。

オスタプ・ベンダー

住所:Kostroma, Sovetskaya str., 2A

2. DUDKI バー
雰囲気が良いところです。美味しい料理が食べられます。
住所:Kostroma, prospect Mira, 18

3. ブリャーヒンクラブ
カフェ・博物館です。P.A.ブリャーヒン(1886-1961)はロシアの作家であり革命家です。一番有名な小説は「赤い鬼の子」で、1966 年の「捕えられない復讐者」はこの小説を映画化したものです。コストロマにはブリャーヒンにちなんで名づけられた図書館と通りがあります。

このカフェは 2009 年にオープンしました。インテリアは革命の雰囲気をあらわしていて、壁には赤軍関連の品物や映

画カットの写真などが掛かっています。
住所:Kostroma, Pryanechnye Ryady,1

APEC 開催後のウラジオストク

杉浦 信也(JIC 東京)

1年遅れのご報告となりましたが、2012 年の年末、久々にウラジオストクに行ってきました。APEC の開催に合わせて、アルチョム空港から市内、市内中心部から金角湾を挟んだチュルキン岬側へ、さらにチュルキン岬のある半島側からルースキー島へと大橋が一気に3つも架橋されました。

ウラジオストクの旅行会社 Lucky Tour のインバウンド部長・イワンさんと日本語ガイド・ナタリアさんの案内で、市内から二つの大橋を利用してルースキー島探検にでかけました。イワンさんは旅行会社に入る前は体育の教師をやっていただけあって、がっちりした体格。寒波が押し寄せ零下20 度にもなっていましたが、イワンさん運転の 4WD で力強く移動しました。

まずは市内から最初の大橋、金角湾横断橋を越えます。ウラジオストクの港と市内を見渡す「鷲の巣展望台」からちょ

うど見下ろしたあたりに橋を支える巨大な塔が空高くそびえています。先端から橋桁にむかってケーブルが何本も伸びており、市内のいたるところからこの美しい横断橋を見ることができます。金角湾横断橋は、今やウラジオストクのシンボルとなっています。

橋を越えてチュルキン岬側に渡り、さらに南下するとルースキー島大橋にたどりつきます。こちらは全長 1885 メートル、斜長橋としては世界最大です。ここまで市内からほんの 20 分ほど。かつてルースキー島にツアーの添乗で渡った時は、船をチャーターして金角湾を遊覧しながら1時間近くかかったので、隔世の観があります。

ルースキー島内に入り、整備された広い道路を行くと、進行方向左手に新設された極東連邦大学の校舎や学生寮が見えてきます。広大な敷地で、ひとつの街ともいえる規模で

イワン部長とナタリアさん

す。さらに進むと海岸沿いに今年の 9 月にオープンが予定されている「沿海地方海洋水族館」が建設中です。完成すれば1つの建物内としては展示水量 2 万 5,000 トンを誇る世界最大の水族館になります(ジンベエザメで有名な大阪・海遊館の展示水量は 1 万 1000 トン)。 http://russian-aquarium.ru/

一方、ウラジオストク市内では、昨年 10 月に「沿海地方オペラ・バレエ劇場」がオープンしました。この年末からバレエやオペラ「エフゲニー・オネーギン」が上演される予定です。まだまだ上演数は少ないようですが、本格化すれば、モスクワやサンクトペテルルグまで出かけずとも、日本からとても近い場所で本場のバレエやオペラの観劇ができるようになりそうです。 http://primopera.com/

海洋水族館にオペラ・バレエ劇場、これからしばらくは、さらなるウラジオストクの進化がとても楽しみです。

ジェーアイシー旅行センター㈱取締役

Колыбельная великому городу

偉大な都市への子守唄

岡本　健裕（JIC 東京）

どうせ開く風穴なら、こっちから開けてやるんだ、そう思って仕事してきたのですが、東京に来て 2 年近く経ち、そんな一番槍の気勢はすっかり角が取れてしまいました。恐れていた通りです。

やっぱり東京は本丸なだけに、奥の院に通じる情報や人脈には事欠かないですけど、そんなものをありがたがってばかりいると、すぐに風穴を開けられる側へ転落してしまいます。つまらん。あ、でも東京のラーメン文化は奥深くていいですね、ラーメン大好き。

食べ物ついでに、去年、ディズニーホテルとプリンスホテルが発端となって日本中で発覚した食品偽装問題、と言うと驚く人もいるでしょうが、でも事実で、すべての始まりは間違いなく、ディズニーとプリンスでした。彼らはちゃんと自主的に不正を発表していましたし（文書で出しただけですが）、報道もされました（ものすごくひっそりとですが）。その報道の後、内部調査をしたのが阪急阪神ホテルズです。こちらでも、プリンスホテルより小規模ながら、ほとんどそっくりの不正が見つかりました。前例に同じく自主的に発表したところ、こっちは大騒ぎになりました。ものすごく叩かれました。社長も辞めました。

世の中はそういうふうにできているらしいです。も

ういいんです。今さら子供っぽい正義感を振りかざして、世直しを叫ぶ気はありません。ピョンヤンに住む人にはピョンヤンなりの幸せがあるでしょう。ここの住民は特別に守ってもらえるのです。夢を壊しそうな無粋な現実から。大丈夫、失敗の責任を取ってくれる人も周到に用意してあります。選ばれたエリートたちの都市は、いつでも皆の憧れる地上の楽園でなくてはならないのです。おっと、途中から関係ない話になってるようです。すみません。地獄はこっちですよ（小声）。

いつまでも去年と同じ毒を吐いていてはいけませんね。

各国大使館は東京にあります
U国大使館にて

今年も、私は留学担当として、皆様をロシアへお誘いしようと手ぐすね引いてお待ちしております。この担当になってから、「オカモトさんは留学されたことがあるのですか?」とたびたび質問されるようになりました。きっとこれからも訊かれるので、あらかじめお答えしておきましょう。あります。

約十年前のこと、モスクワ大学の寮に10ヶ月くらい住んでいました。正直に打ち明けると、勉強よりも住むことが主な動機だったのです。不純ですね。ものすごい脱線をしつつ、以下そのきっかけを白状します。

昨年、私たちJICは、あるお仕事で池辺晋一郎先生に大変お世話になりました（事の仔細は前号の記事に詳しい）。池辺晋一郎と言えばもちろん、日本を代表する偉大な作曲家であり、『N響アワー』というNHKのテレビ番組で長年にわたり司会を務められたことでも有名ですね。

私は十代ど真ん中の時期、この番組にどっぷりはまっていました。いつも会心の演奏を披露してくれるNHK交響楽団には申し訳ないのですが、実は音楽よりも、スタジオで池辺先生とアシスタントの檀ふみさんが繰り広げる、ダジャレ連発の知的すぎるやりとりに心酔していたのです。

番組ではいつも、池辺先生がここぞという好機適所で、極めてクールなダジャレを飛ばし、そのたびに檀ふみさんが、心の底から呆れた表情をするのがお約束でしたが、これが本当に羨ましかった。毎週のように檀ふみとそんな掛け合いができるなんて、まさに役得じゃないですか。ああ、僕も池辺晋一郎になりたい。

そのN響アワーの、とある放送でのことです。この日取り上げられた曲はショスタコーヴィチの交響曲6番（ズービン・メータ指揮）でした。その演奏の前に、池辺先生が、ショスタコーヴィチという作曲家の政治に翻弄され続けた人生を簡単に解説されました。確かこんなふうだったと思います。

――世は恐怖のスターリン時代、ショスタコーヴィチの立場はころころ変わった。例えば交響曲5番や7番はソ連当局から高い評価を得たけれど、逆に9番など厳しい批判にさらされた曲もある。当局の機嫌を損ねることが即、命の危険となる社会で、ショスタコーヴィチは作品を発表するたびごとに、ある時は英雄になり、ある時は人民の敵のレッテルを張られたりしながら、辛くも生き抜いた。――

そこで檀ふみさんが、当然の疑問を挟みます。ではこれから聴く交響曲6番は、どういう評価だったのですか、と。その答えが、どっちでもないだったので、固唾を飲んで聞いていた私はずっこけそうになりましたが、その後で披露された演奏を聴いてさらに驚愕しました。どうしても理解できなかったのです。ソ連の為政者たちが、こんなものを、こんな、音楽そのものとしか言いようのないものを、政治的に有害か無害か大まじめに判断していたなんて。そしてソ連の政治家たちが、この交響曲6番に関しては自国の体制にとって無害である、と聴き分けられるほど優秀な耳を持っていたなんて！

私はこのとき、いつかロシアに住むことに決めました。前からこの国に興味はあったし、必ず訪れるつもりでしたけれども、ちょっと旅行したくらいでは全然足りない相手なんだと悟ったのです。

結局のところ、10ヶ月程度暮らしてみたところで、ロシアのことは、容易にわかるはずもなく、むしろますますわからなくなりました。でも、日本とヨーロッパの間をたった一国でまたいでいるこの国が、世界の中でどんなに大きな（большая / широкая / великая）位置を占めるのかは、少しくらい覚えて帰ってきました。そして気がつきました。誰もが戦い続けながら祖国を守っていることに。ロシアでは、いかに意見が異なっても、みんな、これだけは骨身に染みて知っているのです。自分たちの代わりに血を流してくれる者など誰もいないということを。

読者の皆様の中には目撃された方も多くいらっしゃるでしょう、ロシアでは、そこそこの規模の都市なら必ず無名戦士の墓があって、新婚さんは結婚式の日に立ち寄って献花するのが習わしになっています。この

儀式があるのは、祖国を守って命を落とした祖父母の代を忘れず、今の平和に感謝をささげるため、だけではないように思います。むしろ、ひとたび事あらば、自分たちもまた、母なる大地のために斃れる覚悟があるか、銃後を支え抜く気構えがあるかを問われ、やってみせます先輩、と誓う場所なのではないか、という気がします。そこへ現代ロシアの離婚率の高さが合わされば、人生で二度、三度、その決意を新たにする人も珍しくないでしょう。

ロシアは世界のルールに風穴を開ける側の国です。良いと信じられてきた価値観を、変えられないと思われてきた秩序を、ぜーんぶひっくり返して新しいものに入れ替えることができる力を、この国は持ち続けています。やるかどうかは別にして、友好親善だろうと、殺し合いだろうと、自分の代で決断し、子々孫々に歴史を背負わせるだけの心の準備はしているのです。

私たちはせっかくそんな骨のある（やっかいな）国と一緒に仕事をしているのに、どうして私の職場は東京にあるんでしょう。

ずっと夢をみているままのこの都市に。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

本の紹介

トルストイと生きる

藤沼　貴著／春風社刊

岩波文庫版「戦争と平和」の訳者であり、トルストイの翻訳と研究に生涯を捧げた藤沼貴先生（早稲田大学名誉教授）が 2012 年 1 月に逝去されてから2年。その遺稿論文集がまとめられ出版された。膨大な論文の中から 30 本が選ばれ、執筆順に収録されている。その中には、「初期のトルストイ」（卒業論文）、「トルストイ研究」（修士論文）、それに続く発表論文「トルストイの個性」が含まれている。巻末の解説と解題で、佐藤雄亮氏（モスクワ大学講師）は、「先生のトルストイ研究は、極言すると、最初の三作でほぼ結論が出てしまい、あとは間口を広げて、その結論を徹底的に検証しつつ押しひろげる方向に、ベクトルが変わったといえる。」と解説しておられる。

トルストイ学者としての藤沼貴先生の研究の軌跡を通じて、トルストイをより深く理解するために、多くのロシア文学愛好者に手に取っていただきたい 1 冊だ。

＊＊JICのロシア語留学・研修＊＊

25 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 25 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 2,500 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、自分ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学４月生・募集中

締切間近です
今すぐお申込みを!

期間：2014年4月1日より10ヶ月

締切: 2014年1月17日(金)

モスクワ国立大学 733,700 円（授業料 10 ヶ月）

ｻﾝｸﾄ･ﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立大学 676,200 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆
ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。
東京事務所　平日 10-18 時　03-3355-7294/7295
大阪デスク　平日 10-15 時　06-6944-2341
※事前にご予約ください

1~4月の予定

2014 年	1 月 6 日　新年営業開始
1 月 17 日	長期留学 4 月出発生申込み締切
3 月上旬	長期留学 4 月生　事前説明会（東京・大阪）
4 月上旬	長期留学 4 月生　出発
4 月上旬	JIC 東京　ロシア語講座　前期スタート！
4 月上旬	JIC 大阪　ロシア語講座　前期スタート！

最新情報は JIC のホームページに随時掲載いたします。
その他のロシア情報も満載です!!
ぜひホームページをご覧ください!!